Central Weekly Market Report

NO. 1040

2021年4月23日
セントラル短資株式会社　総合企画部

今週（4月19日から4月23日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、今積み期はマクロ加算残高にかかる基準比率が5%増加したこと（15.5%→20.5%）、日銀の点検による新施策の算定が一部開始されたこと、大型連休の前倒し調達等の要因から、積み期序盤としては高めのレート水準となった。無担保コールO/N物は、都銀業態で▲0.03～▲0.01%程度、信託・証券・外銀業態で▲0.03～▲0.015%程度、地銀業態で▲0.015～▲0.005%程度の気配で推移した。加重平均レートは、週を通して▲0.01%台前半で、ほぼ横ばいの推移となった。ターム物はショートターム物で▲0.01%をやや上回る水準の出合いが見られた。日銀当座預金残高は、新型コロナオペや年金の払い等を受け、525～530兆円程度で推移した。

22日には新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、47,193億円の貸付が行われた（期落ちは27,560億円）。残高は23日時点で667,897億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGCT/Nは、▲0.120～▲0.085%出合いと、先週より水準が低下した。週初19日のT/Nは▲0.10～▲0.09%の出合い。翌20日のT/Nは、オファーサイドの資金調達姿勢が消極的になったことから▲0.115～▲0.09%出合いとレートが低下した。翌21日のT/Nは短国買入オペが実施されたこともあり、▲0.120～▲0.095%の出合いと一段とレートが低下する展開となった。22日のT/Nは反転して▲0.105～▲0.085%の出合い。23日のT/Nは短国3M物の発行日にあたり、業者のファンディングニーズが出たことで▲0.09～▲0.085%と甘めの出合いとなった。

SCについては、2y414～423、5y140～147、10y349～361、20y171～176、30y66～70、40y13などカレント銘柄を中心にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国オペのオファー額が先週から減額となったものの、入札が順調に消化されていったことで、需給の持ち直しが意識される展開となった。3M物が▲0.105%近辺、6M物が▲0.110%近辺での出合いが見られるなど、しっかりとした推移となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.125～▲0.123%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1268%、按分落札利回▲0.1258%と無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.130～▲0.127%出合いと、堅調に推移した。

21日に実施された短国買入オペは、前回より2,500億円減額の7,500億円でオファーされ、平均落札利回較差、按分落札利回較差ともに+0.005%と、やや弱めの結果となった。

22日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.110～▲0.105%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1102%、按分落札利回▲0.1082%と、しっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.110%出合いと、底堅く推移した。

23日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.103～▲0.102%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1035%、按分落札利回▲0.1023%と、しっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.107%出合いと、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP 市場は特段のイベントは無かったものの、週間償還総額が3,000 億円程度に対して、発行総額は11,000億円程度と、大幅な発行超となった。不動産・陸運・小売等の幅広い業態において大型案件が実施され、増額発行も散見された。入札ベースでは連日で発行額が償還額を上回り、3月末時点で20兆円弱であった市場残高は、23日時点では23兆円台まで積み上がる見通しとなっている。発行レートは、引き続き新型コロナオペの担保需要から投資家側による積極的な買いが見られていることから、マイナス圏の推移となっている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均･%）	東京レポレート(翌日物･ T+1スタート･%)	日銀当座預金残高 （億円）
4/19（月）	29,685.37	0.080	108.63	△ 0.013	△ 0.100	5,273,000
4/20（火）	29,100.38	0.080	108.19	△ 0.013	△ 0.110	5,256,900
4/21（水）	28,508.55	0.070	108.07	△ 0.013	△ 0.121	5,248,800
4/22（木）	29,188.17	0.065	108.03	△ 0.013	△ 0.111	5,270,700
4/23（金）	29,020.63	0.065	107.90	△ 0.012	△ 0.091	5,308,500

来週（4月26日から4月30日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/26（月）	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～) 3月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 2月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				3月の米耐久財新規受注
4/27（火）	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望				米FOMC(1日目) 2月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 4月の米CB消費者信頼感指数
4/28（水）	3月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	2Y 30,000億円 5/6発行	交付税借入 11,000億円 5/14借入		米FOMC(2日目)
4/29（木）	昭和の日				1-3月期の米GDP速報値
4/30（金）	3月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 3月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 4月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 3月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 4月の消費動向調査(内閣府 14:00) 3月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				3月の米個人所得・消費支出 4月のシカゴPM景況感指数 4月のユーロ圏消費者物価指数速報値 1-3月期のユーロ圏GDP1次速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/26（月）	▲ 2,100	▲ 1,200	▲ 3,300	CP買入 社債買入 国債補完	▲ 600 400	 800 	600	▲ 2,700	TB3M発行▲65000償還61100 TB6M発行▲34000償還31300
4/27（火）	▲ 3,000	▲ 1,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	
4/28（水）	▲ 3,000	12,000	9,000				0	9,000	
4/29（木）	昭和の日								
4/30（金）	▲ 3,000	11,000	8,000	CP買入		4,000	4,000	12,000	
週間合計	▲ 11,100	20,800	9,700	―	▲ 200	4,800	4,600	14,300	

4/26は日銀予想、4/27以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、大型連休を前に資金ポジションの動向が注目されるが、引き続き地銀を中心に調達ニーズが強くなると見られる。レート水準は横ばいからやや上昇の推移が見込まれる。レポ市場は、引き続きオファーサイドの資金調達姿勢に左右される展開が見込まれ、GC T/Nは▲0.12～▲0.08%程度での推移が予想される。短国市場は、入札は予定されていない。大型連休を控えて、需給やレート水準といった市場動向が注目される。また、26日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、26日にCP等買入オペが4,000億円で実施予定となっている。発行レートは極めて低位で推移しているものの、在庫の入替ニーズが強いことから、按分レートは上昇すると予想する。

主要なイベントは、国内では26～27日に金融政策決定会合、海外では27～28日にFOMC、29日に1-3月期の米GDP速報値、30日に4月のユーロ圏CPI速報値、1-3月期のユーロ圏GDP1次
速報値が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社　登録金融機関関東財務局長（登金）第526号　日本証券業協会加入